2019年2月

小石川

２月２６日　（火）　曇りのち晴れ

★ ２月の半ばを過ぎると暖かい日が多くなって、この日も薄曇りであったが歩くとコートが邪魔になるほどであった。小平稲門会の松谷さんが久しぶりに参加された。

★ 地下鉄丸の内線の池袋駅から２つ目、茗荷谷駅で下車して春日通り方面の改札を出た。改札の左手からいきなり急な茗荷坂の下りで、この坂を降りきった左手に林泉寺がある。住職の話によるとこの寺は昨年末に改築工事が終わったばかりだそうで、一見すると高級マンションのように見えるモダンな建物である。今は外構工事が行われていて、有名な「しばられ地蔵」は境内の隅っこにひっそりと置かれていた。いずれ玄関の横に鎮座する予定だそうである。「しばられ地蔵」は葛飾区の水元公園近くの南蔵院（2017 年 6 月に訪問）のものが有名であるが、ここの「しばられ地蔵」も諸願成就、難病平癒に霊験があり、祈願するときに縄で縛り、成就したときに縄を解くという。
林泉寺から 100mほどの深光寺には滝沢馬琴の墓がある。茗荷坂を挟んで林泉寺、深光寺の向かいには拓殖大学、貞静学園、跡見学園である。

林泉寺の本堂

Ｎ氏は何を祈願する？

★ 地下鉄丸の内線は茗荷谷駅を出ると地上に出て高架線を走っている。深光寺を出て地下鉄のガードを潜り、釈迦坂の急な坂を登りきると春日通りに出て茗荷谷駅に戻ってきた。春日通りを横断して右折すると「カイザースラウテルン広場」がある。ここは文京区とドイツのカイザースラウテルン市との姉妹都市提携のシンボルとして作られ、ユニコーンや人面魚、アンモナイトやカタツムリの彫刻が非常にユニークである。

★ 広場と道ひとつを挟んで筑波大学と放送大学と教育の森公園がある。公園の中には文京スポーツセンターがあり、その横の遊歩道を歩いて行くと左手に筑波大学附属小学校があり、突き当りには占春園がある。この一帯は徳川光圀の異母弟、松平頼元が上屋敷を構えた土地であったが、明治 36 年（1903）に東京高等師範学校が湯島から移転してきた。戦後の学制改革で東京高等師範学校は東京教育大学に改編され、1973 年には筑波大学が設立されて一部の施設を残して

筑波キャンパスに移った。

カイザースラウテルン広場	筑波大学と放送大学	筑波大学附属小学校

★ 占春園は松平家の上屋敷の一部で、今は小さな池と林が残っているだけである。附属小学校の校地となっているが誰でも立ち入ることができる。余り手入れされている様子はなく、人気もないので小さいながら昔の武蔵野の面影を残している。今年のＮＨＫの大河ドラマ「いだてん」の主役の一人である嘉納治五郎の銅像がひっそりと立っている。嘉納治五郎は明治 26 年から大正 8 年まで、再度にわたり通算 20 余年にわたり東京高等師範学校の校長を務めた。

占春園	嘉納治五郎像	嘉納治五郎の説明板

★ 占春園から 200m足らずで小石川植物園であるが、ここは細長い植物園の西南の角で、東南の角にある入り口までは 700mも続く植物園の塀に沿って歩かなければならない。近くには大日本印刷や凸版印刷などの大手印刷会社があるので製本工場が多く、紙折り機の音が響いている。

★ 小石川植物園は正式には「国立大学法人東京大学大学院理学系研究科附属植物園」という長い名前である。貞享元年（1684）に徳川幕府が設置した「小石川薬園」が始まりで、総面積は約 4 万 9 千坪もある。台地、傾斜地、低地、泉水地など変化に富んだ地形を活かし、東アジアに分布する高等植物を中心に収集・栽培している。

正門から入場して左へ進むといくつかの池があり、その先にウメ林がある。丁度ウメが満開でかぐわしい香りが漂ってくる。紅、白、薄紅色など色とりどりに咲き乱れていて春を感じることができた。

台地へ登るとスズカケノキ、ボダイジュ、ツツジ、サクラなどのエリアであるが、どの木も葉を落としていて、まだ冬景色である。本館前にあるヒマラヤスギの大木の見事さに感動した。

梅の花ざかり	スズカケノキ	ヒマラヤスギ

★ 小石川植物園を出て播磨坂を登る。第２次世界大戦後の区画整理でできた「環状３号線」の一部として整備され、この地にあった松平播磨守の上屋敷にちなんで「播磨坂」と名付けられた坂で、1960 年に約 150 本の桜が植えられ、今では立派な桜並木となった。ヨメイヨシノはまだ固い蕾であったが、１本のオオシマザクラだけは満開であった。坂の中程を右に入った所に石川啄木終焉の地がある。ビルの１階の一画の１坪ほどの小さな顕彰室があって、その前に石碑が立っている。

播磨坂のオオシマザクラ	啄木終焉の地の碑	石川啄木顕彰室

★ 啄木終焉の地から東京学芸大学付属竹早小・中学校の前を通り、20 分ほどで傳通院に着いた。室町時代に開基された無量山寿経寺という浄土宗の寺であるが、徳川家康が生母・於大の方を埋葬したことから彼女の法名・傳通院殿にちなんで伝通院という院号となった。その後将軍家の菩提寺として千姫など多くの徳川家の人々が埋葬されている。また清河八郎、佐藤春夫、柴田錬三郎、橋本明治、浪越徳次郎などの有名人の墓もある。

傳通院山門	傳通院本堂	千姫の墓

★ 傳通院の次に小石川後楽園に行く予定であったが、傳通院を出たときは既に 4 時半を過ぎていて後楽園には入場できない時間になっていたので、飯田橋駅で解散となった。
飯田橋駅近くの居酒屋で賑やかに反省会を行った。

小石川植物園にて　　2019. 2. 26

俳句クラブの松尾さんの活発なリクルート活動の成果が出て、散策の会から俳句クラブに入会する人が多くなっています。今月は多くの方から俳句を頂きました。

梅まつり　一輪づつに　声を上げ
一柱に　凭りて老梅　盛んなり　　松尾良久

姫椿　母校の門柱　古さびて
白梅や　独りはぐれて　牛天神　　金子正男

縛られて　微笑む地蔵　春うらら　（小日向・林泉寺で）
雅なる　名の一樹ずつ　梅めぐる　（小石川植物園で）　　松谷富彦

春めきぬ　韋駄天駆けし　師範坂
春光や　和洋おりなす　医学館　　志賀　勉

紅白の　枝ぶり競ふ　梅日和　　辻　直邦

参加者　　奥野和雄、金児利行、金子正男、河合宏則、古賀良郎、小島恕雄夫妻、志賀勉、辻直邦、滑志田隆、松尾良久、水野聰夫妻、水野博司、臼井静江、梶原松子、中村仁美、松谷富彦　　以上 18 名

写真と文　小島恕雄